

鈴鹿亀山地区
高齢者介護に関する調査結果報告書
〔サービス提供事業所調査〕

令和 2 年 4 月
鈴鹿亀山地区広域連合

目次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の方法	1
3 配布・回収数	1
4 報告書の見方(注意事項)	1
 II 調査結果	 2
貴事業所の状況について	2
介護サービスについて	4
介護人材について	20
施設・居住系の事業所における入退居の状況について	24
地域包括ケアについて	26
これからの高齢者介護について	32

I 調査の概要

1 調査の目的

鈴鹿亀山地区広域連合では、令和3年度からの「第8期介護保険事業計画」の策定作業を進めています。この調査は、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の保健福祉サービスを充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

2 調査の方法

- ①調査対象地域 鈴鹿亀山地区全域
- ②調査対象者 鈴鹿亀山地区広域連合管内の介護保険サービスの提供事業所
- ③調査期間 令和2年3月(調査基準日は令和2年3月1日)
- ④調査方法 調査票による本人記入方式、郵送配布・郵送回収による郵送調査

3 配布・回収数

有効配布数	回収数	回収率	白紙回答	有効回収数	有効回収率
336	277	82.4%	0	277	82.4%

4 報告書の見方(注意事項)

- ① グラフおよび表中のN数(number of case)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
- ② 調査結果(表中)の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ⑤ 参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている場合もあります。

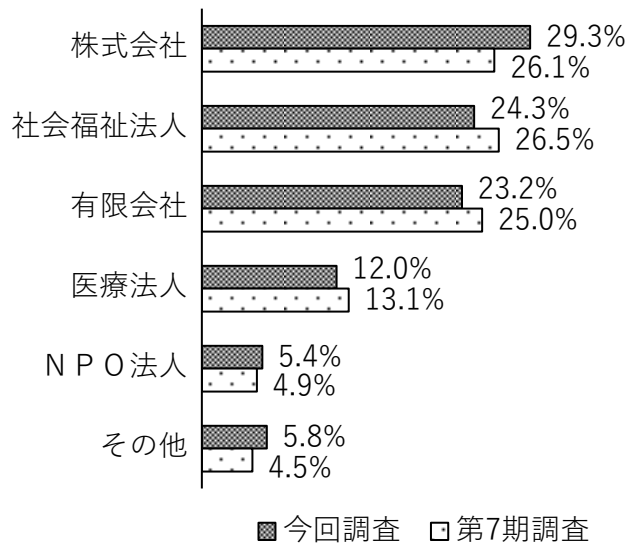
II 調査結果

貴事業所の状況について

問1 貴事業所の経営主体はどれですか。（複数選択可）【N=276、268(第7期調査)】

経営主体については、「株式会社」が29.3%と最も高く、次いで「社会福祉法人」(24.3%)、「有限会社」(23.2%)と続いています。

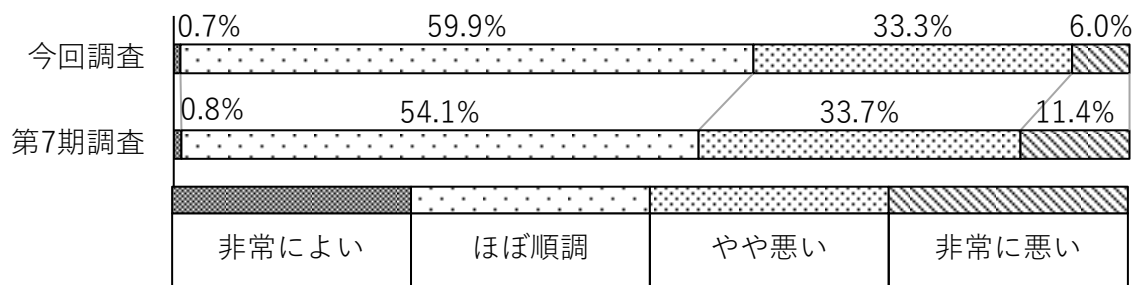
第7期調査と比較すると、「株式会社」が3.2ポイント上昇しています。



問2 貴事業所の運営（経営）状況はいかがですか。（1つを選択）【N=267、255(第7期調査)】

事業所の運営状況については、「ほぼ順調」が59.9%と最も高く、「非常によい」(0.7%)を合わせると『経営状況はよい』は60.6%を占めています。一方、「やや悪い」(33.3%)と「非常に悪い」(6.0%)を合わせた『経営状況は悪い』は39.3%となっています。

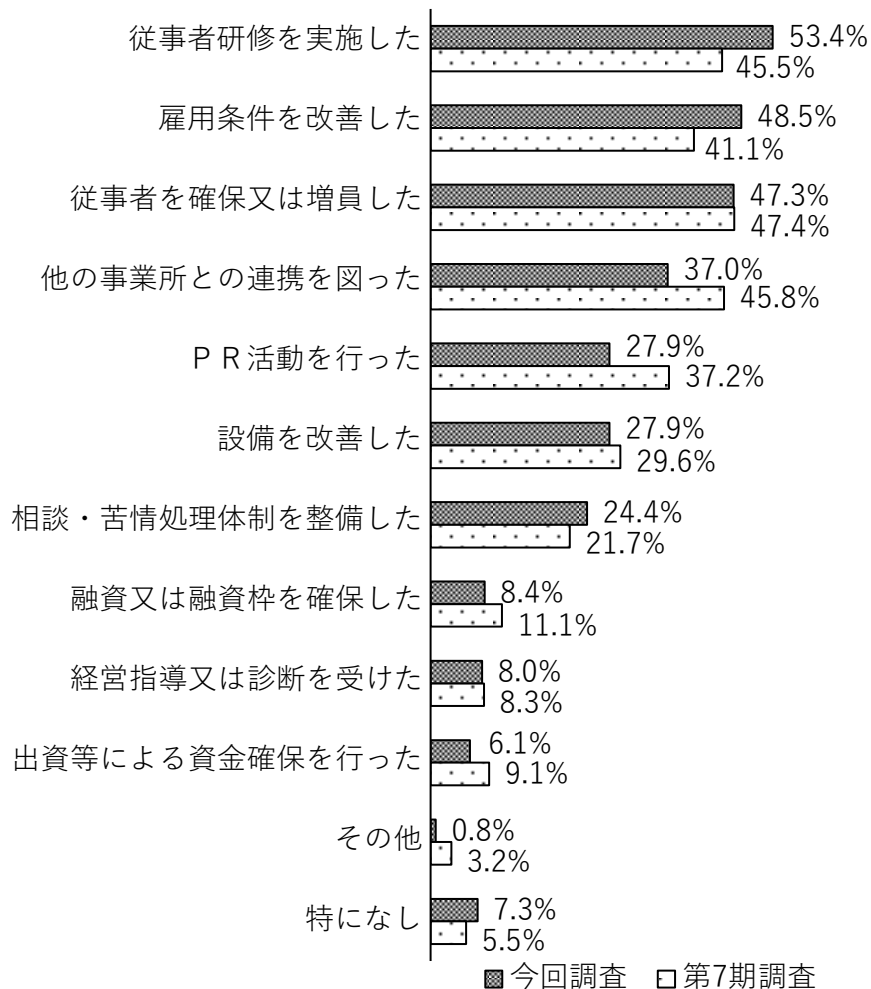
第7期調査と比較すると、『経営状況はよい』が5.7ポイント上昇しています。



問3 介護保険制度が導入されてから現在までに、以下の経営改善等に関することを行いましたか。
(複数選択可) 【N=262、253(第7期調査)】

経営改善等に関することの実施状況については、「従事者研修を実施した」が53.4%と最も高く、次いで「雇用条件を改善した」(48.5%)、「従事者を確保又は増員した」(47.3%)と続いています。

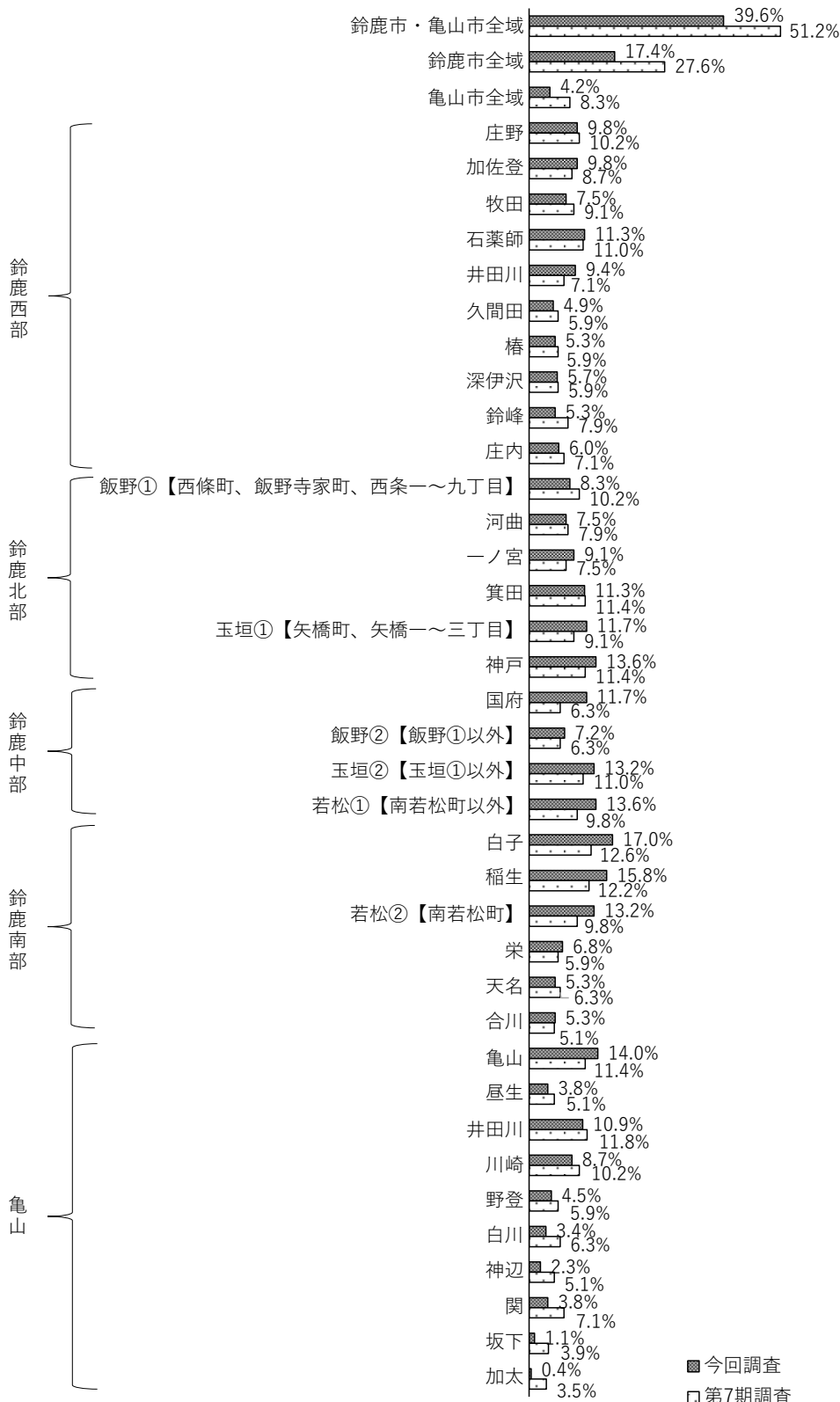
第7期調査と比較すると、「従事者研修を実施した」が7.9ポイント、「雇用条件を改善した」が7.4ポイント、それぞれ上昇する一方、「P R活動を行った」は9.3ポイント、「他の事業所との連携を図った」は8.8ポイント、それぞれ低下しています。



介護サービスについて

問4 貴事業所のサービス提供地域をお答えください。（複数選択可）【N=265、254(第7期調査)】

サービス提供地域については、「鈴鹿市・亀山市全域」が39.6%と最も高く、次いで「鈴鹿市全域」(17.4%)、「白子」(17.0%)と続いています。

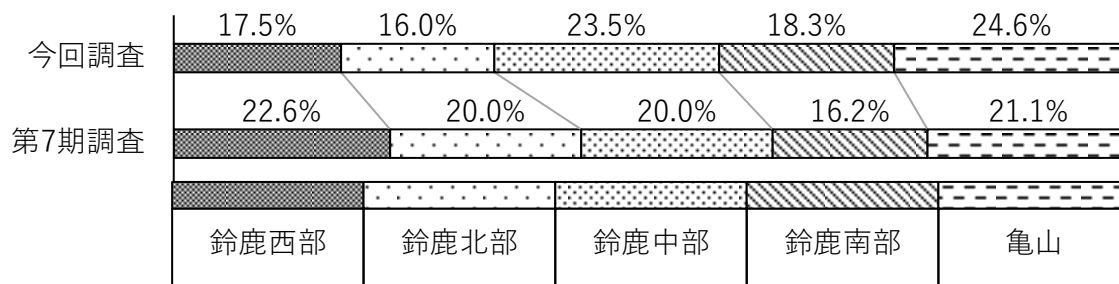


問5 貴事業所の所在地をお選びください。（1つを選択、区域は問4を参考にしてください）

【N=268、265(第7期調査)】

事業所の所在地については、「亀山」が24.6%と最も高く、次いで「鈴鹿中部」(23.5%)、「鈴鹿南部」(18.3%)、「鈴鹿西部」(17.5%)、「鈴鹿北部」(16.0%)と続いています。

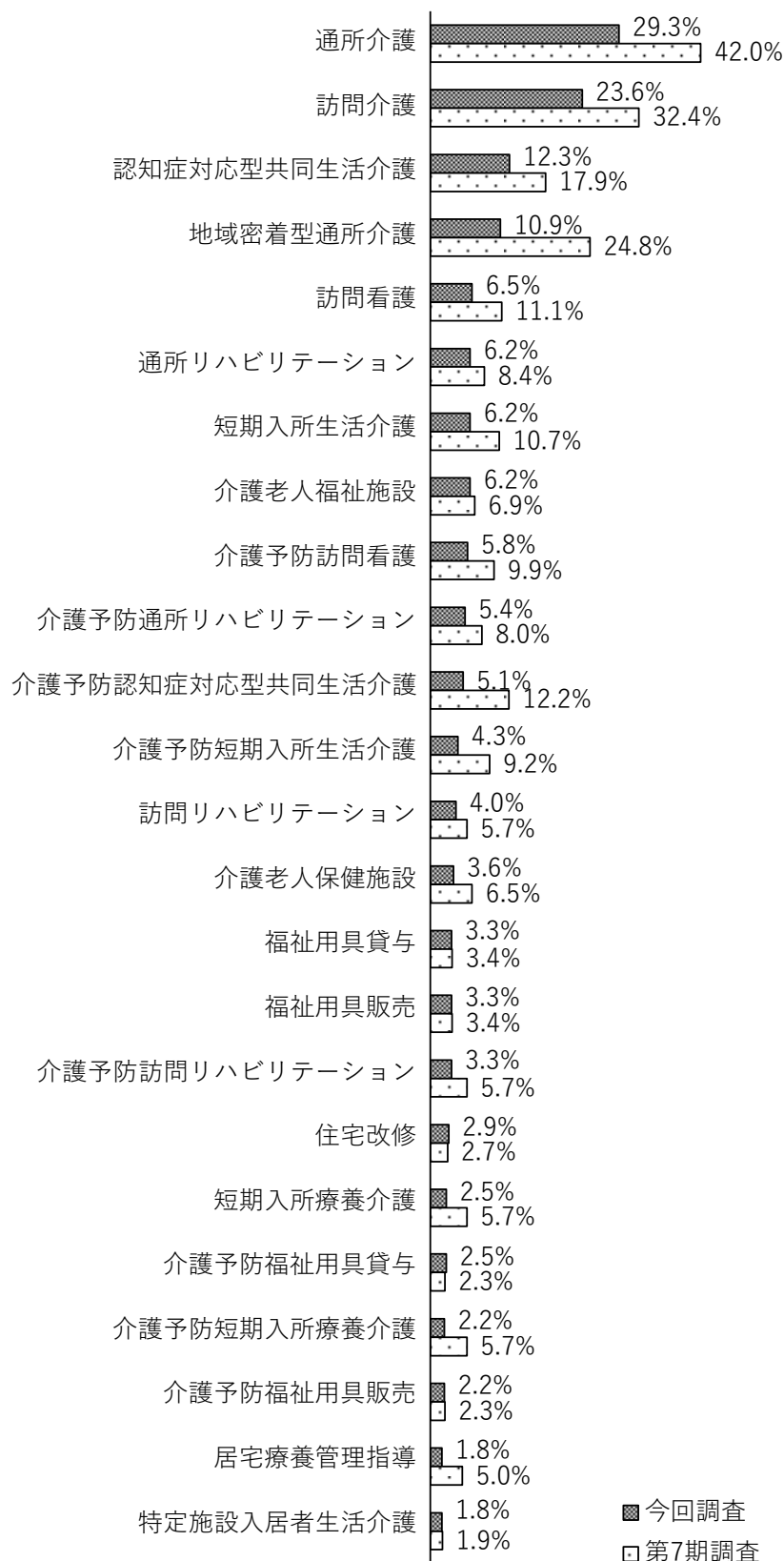
第7期調査と比較すると、「鈴鹿中部」と「亀山」が3.5ポイント上昇する一方、「鈴鹿西部」は5.1ポイント、「鈴鹿北部」は4.0ポイント、それぞれ低下しています。



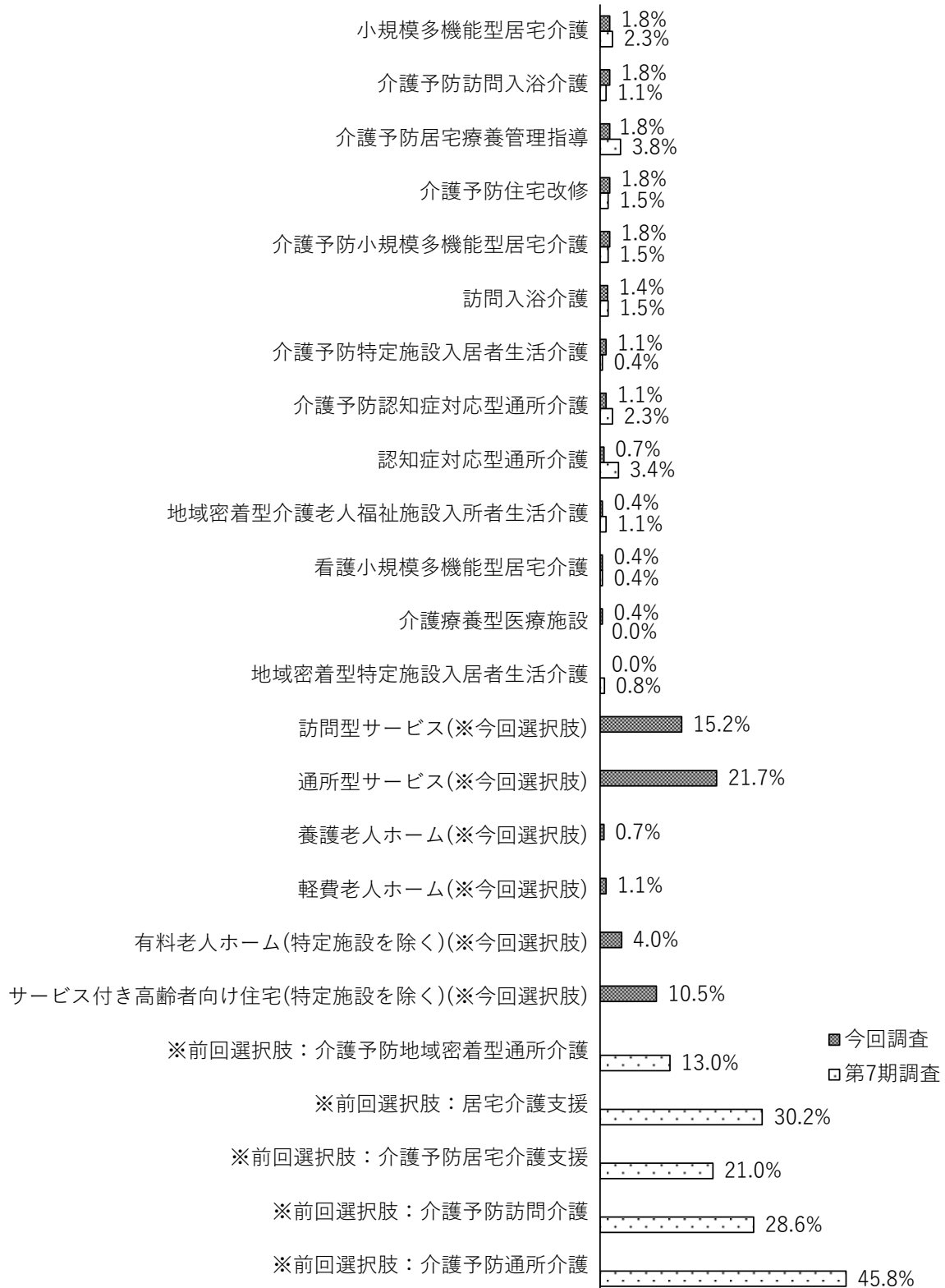
問6 貴事業所において実施されているサービスはどれですか。（1つを選択）

【N=276、262(第7期調査)】

事業所が実施しているサービスについては、「通所介護」が29.3%と最も高く、次いで「訪問介護」(23.6%)、「通所型サービス」(21.7%)と続いています。

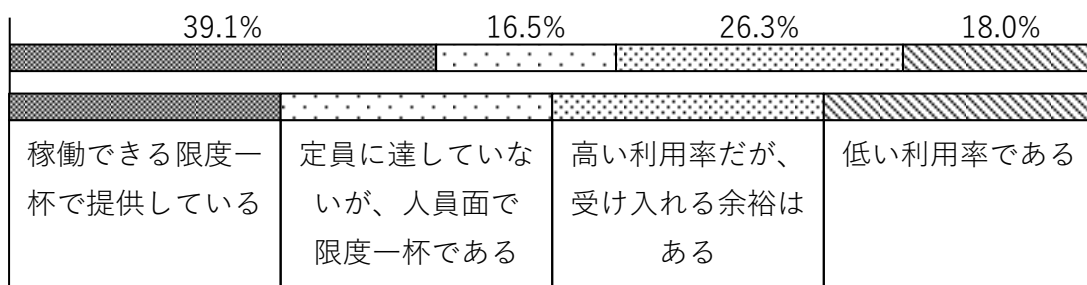


■ 今回調査
□ 第7期調査



問7 貴事業所におけるサービス提供はどのような状況ですか。（1つを選択）【N=266】

事業所におけるサービス提供状況については、「稼働できる限度一杯で提供している」が39.1%と最も高く、「定員に達していないが、人員面で限度一杯である」は16.5%となっており、過半数が受け入れ限度一般の状況となっています。また、「高い利用率だが、受け入れる余裕はある」が26.3%、「低い利用率である」は18.0%となっています。

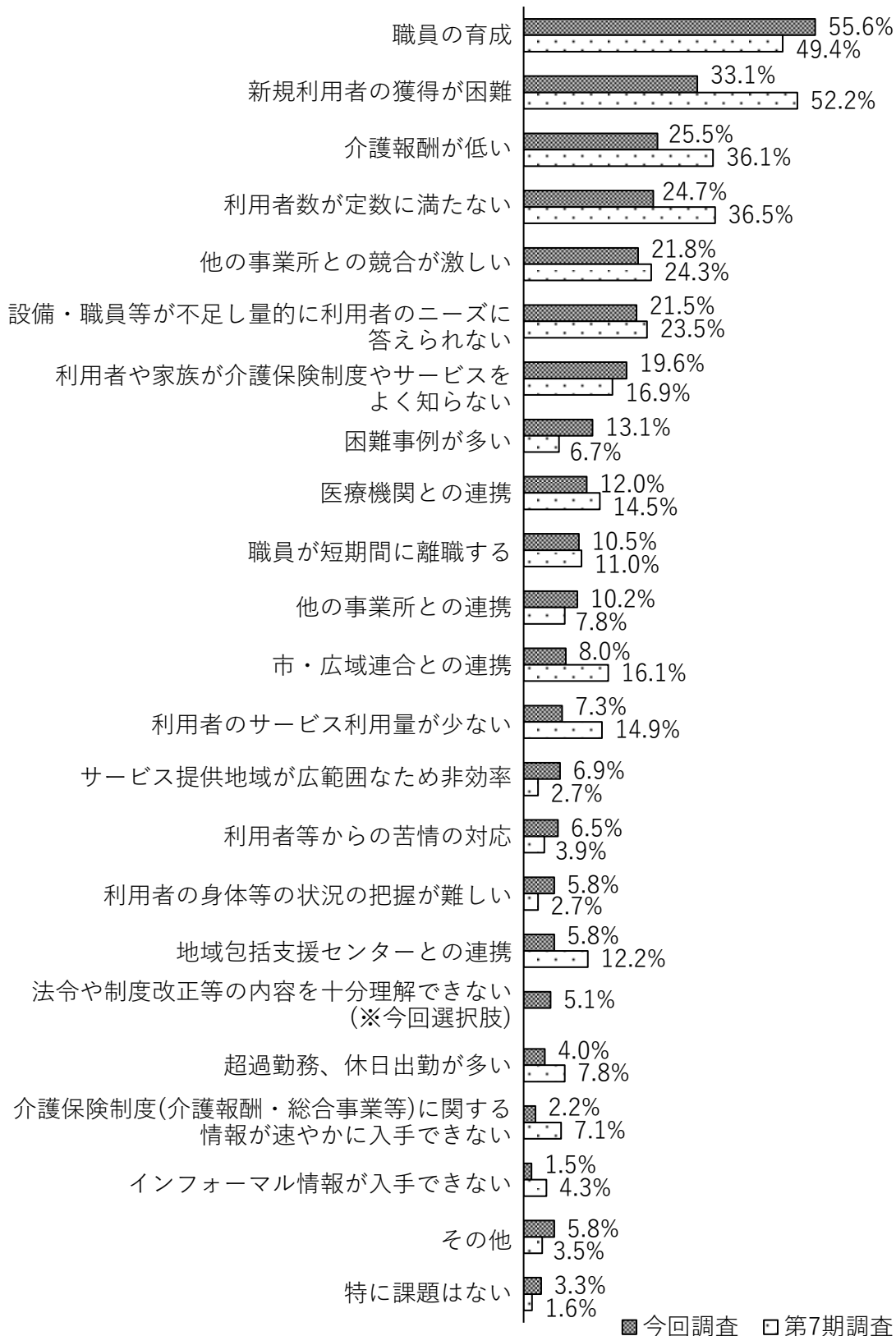


問8 サービスについて、事業を運営する上での課題は何ですか。（複数選択可）

【N=275、255(第7期調査)】

事業を運営する上での課題については、「職員の育成」が55.6%と最も高く、次いで「新規利用者の獲得が困難」(33.1%)、「介護報酬が低い」(25.5%)と続いています。

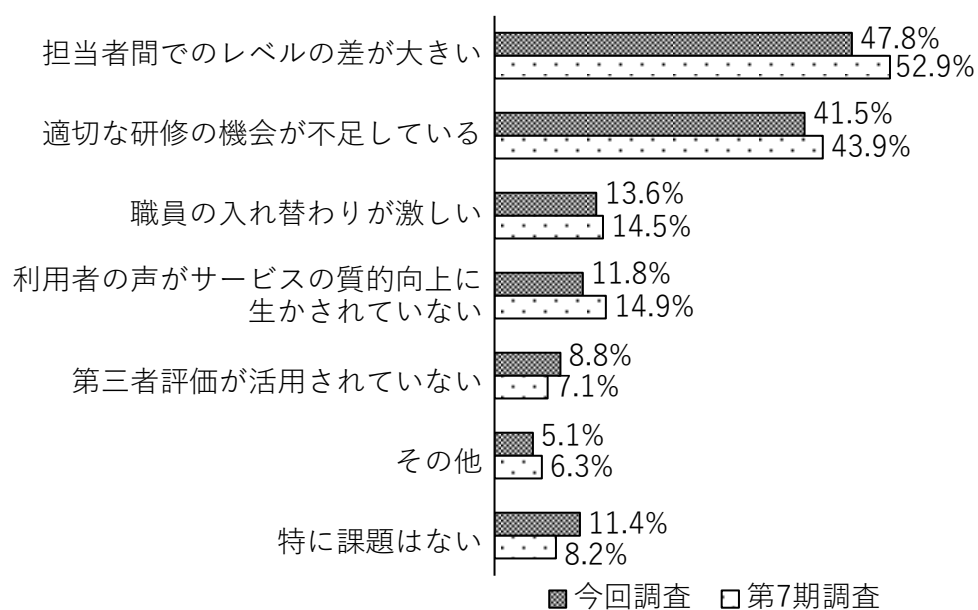
第7期調査と比較すると、「困難事例が多い」が6.4ポイント、「職員の育成」が6.2ポイント、それぞれ上昇しています。一方、「新規利用者の獲得が困難」は19.1ポイント、「利用者数が定数に満たない」は11.8ポイント、「介護報酬が低い」は10.6ポイント、それぞれ低下しています。



問9 介護知識や介護技術などをレベルアップし、サービスの質的向上を図るうえでの課題は何だと思いますか。（複数選択可）【N=272、255(第7期調査)】

サービスの質的向上を図るうえでの課題については、「担当者間でのレベルの差が大きい」が47.8%と最も高く、次いで「適切な研修の機会が不足している」(41.5%)、「職員の入れ替わりが激しい」(13.6%)と続いています。一方、「特に課題はない」は11.4%となっています。

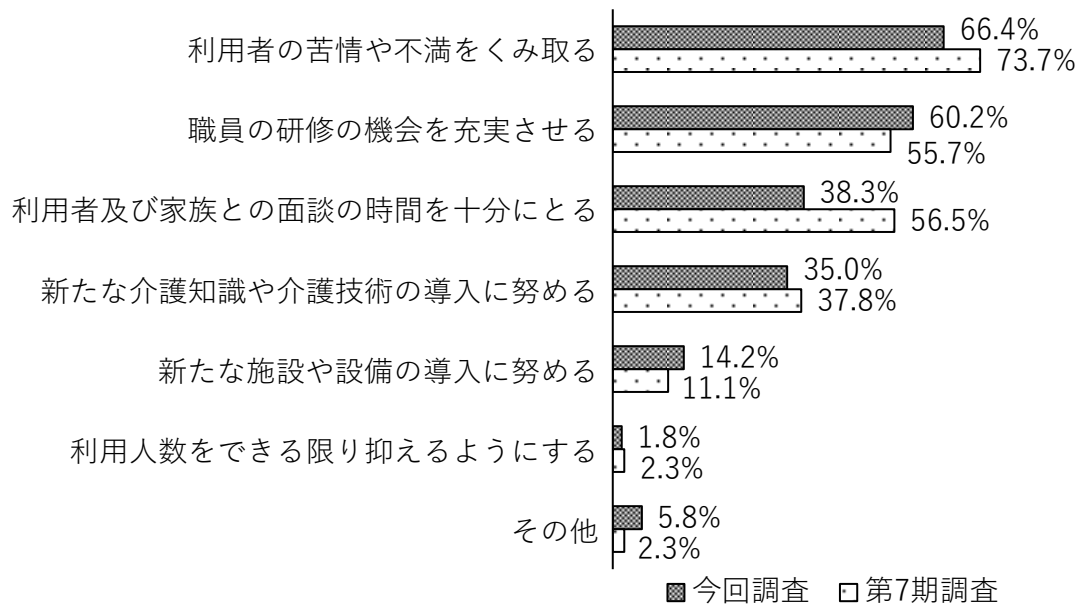
第7期調査と比較すると、「特に課題はない」が3.2ポイント上昇する一方、「担当者間でのレベルの差が大きい」は5.1ポイント、「利用者の声がサービスの質的向上に生かされていない」は3.1ポイント、それぞれ低下しています。



問10 サービスの質を高めるために貴事業所が行っていることはどんなことですか。（複数選択可）
【N=274、262(第7期調査)】

サービスの質を高めるために実施していることについては、「利用者の苦情や不満をくみ取る」が66.4%と最も高く、次いで「職員の研修の機会を充実させる」(60.2%)、「利用者及び家族との面談の時間を十分にとる」(38.3%)と続いています。

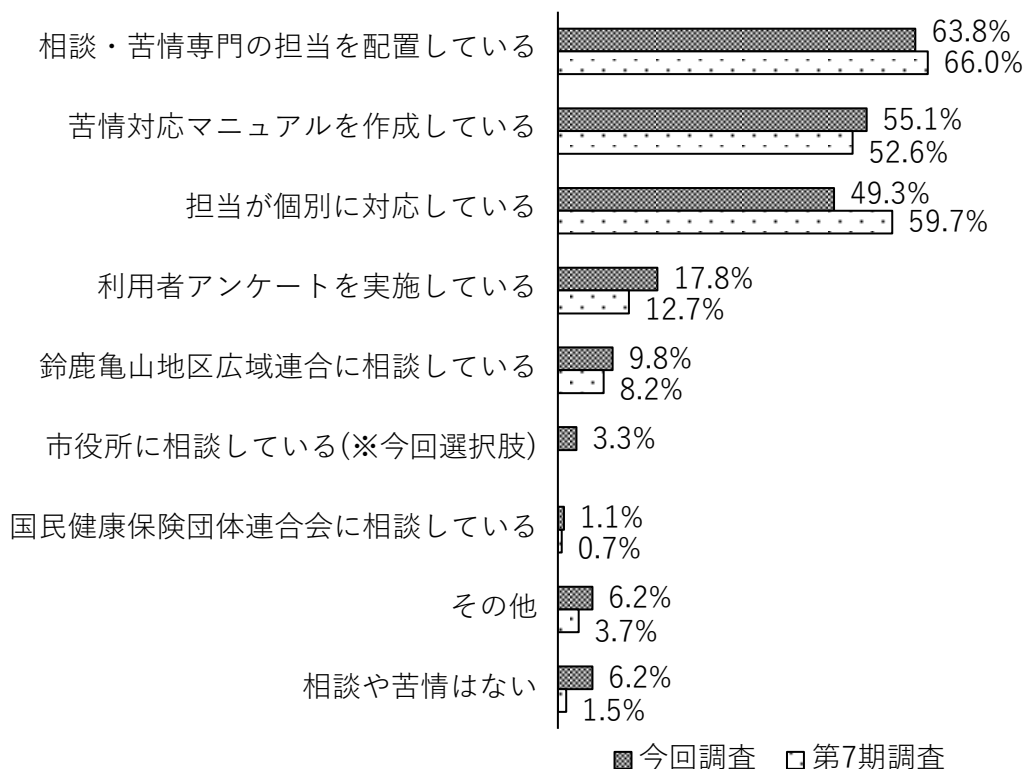
第7期調査と比較すると、「職員の研修の機会を充実させる」が4.5ポイント、「その他」が3.5ポイント、「新たな施設や設備の導入に努める」が3.1ポイント、それぞれ上昇しています。一方、「利用者及び家族との面談の時間を十分にとる」は18.2ポイント、「利用者の苦情や不満をくみ取る」は7.3ポイント、それぞれ低下しています。



問11 貴事業所では、利用者や家族からの相談や苦情についてどのように対応していますか。
(複数選択可) 【N=276、268(第7期調査)】

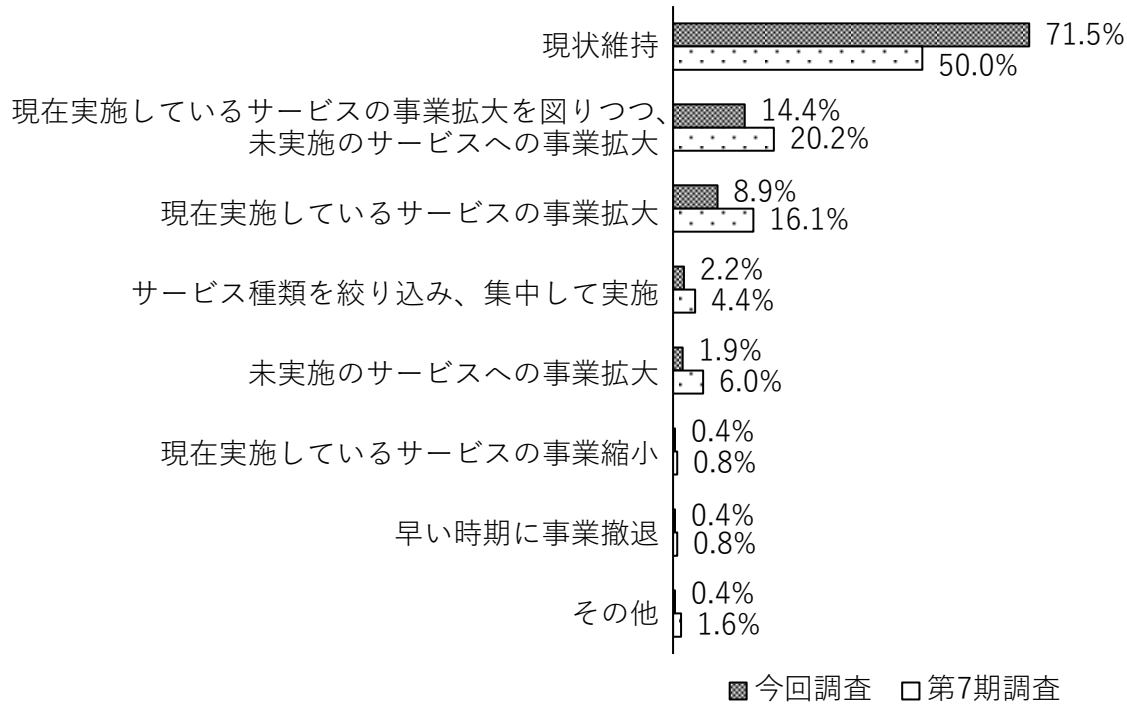
利用者や家族からの相談や苦情への対応については、「相談・苦情専門の担当を配置している」が63.8%と最も高く、次いで「苦情対応マニュアルを作成している」(55.1%)、「担当が個別に対応している」(49.3%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「利用者アンケートを実施している」が5.1ポイント、「相談や苦情はない」が4.7ポイント、それぞれ上昇する一方、「担当が個別に対応している」は10.4ポイント低下しています。



問12 貴事業所は、今後、どのようにサービスを展開していこうとお考えですか。(1つを選択)
【N=270、248(第7期調査)】

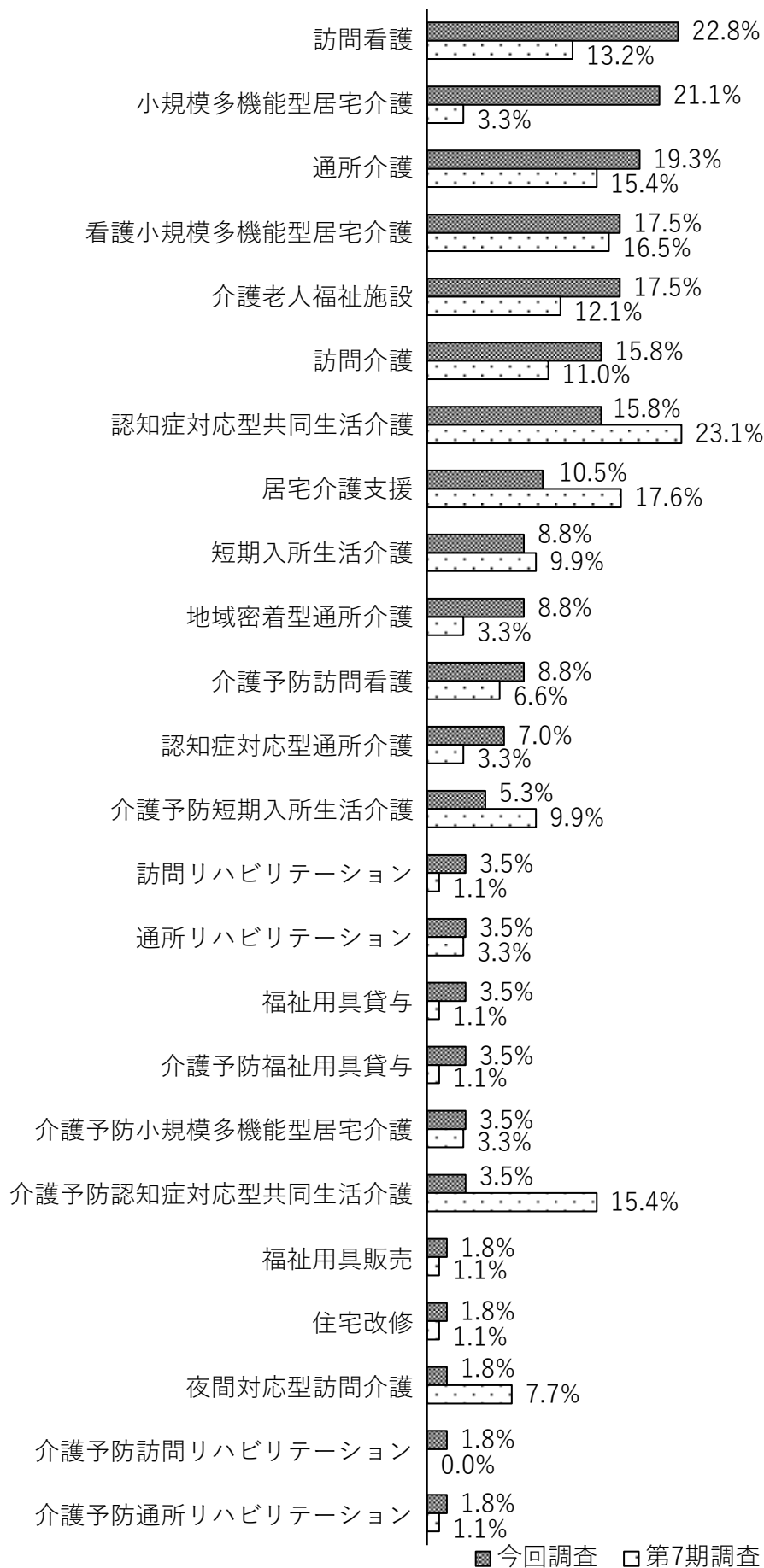
今後のサービス展開については、「現状維持」が71.5%を占めています。「現在実施しているサービスの事業拡大を図りつつ、未実施のサービスへの事業拡大」は14.4%、「現在実施しているサービスの事業拡大」は8.9%、「サービス種類を絞り込み、集中して実施」は2.2%となっています。第7期調査と比較すると、「現状維持」が21.5ポイント上昇しています。

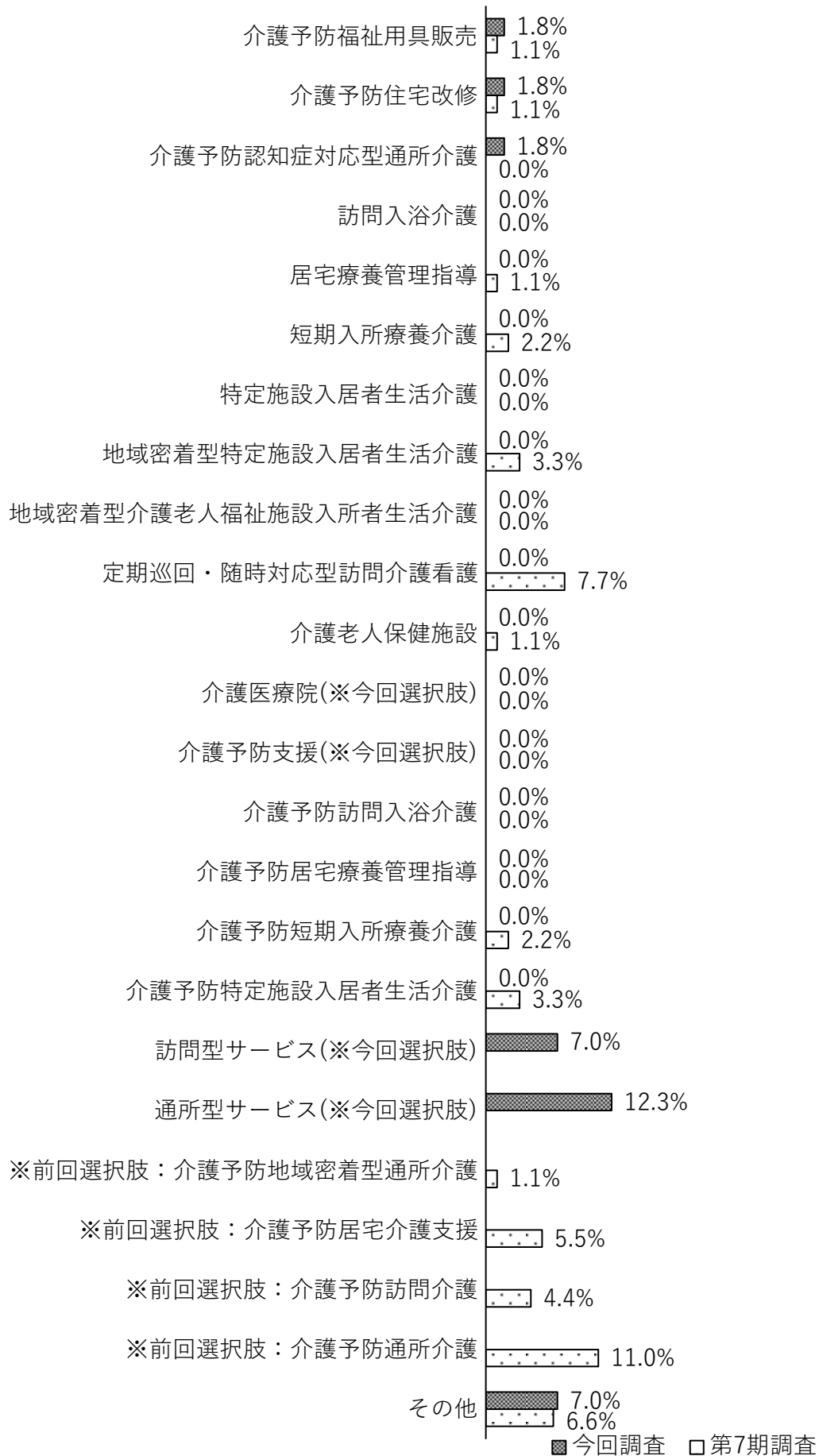


問12で「1」～「3」と回答した事業所にお伺いします。

問12-② 貴事業所において今後、参入・拡充を考えている介護保険サービスはありますか。
(複数選択可、施設サービスについては定員も記入) 【N=57、91(第7期調査)】

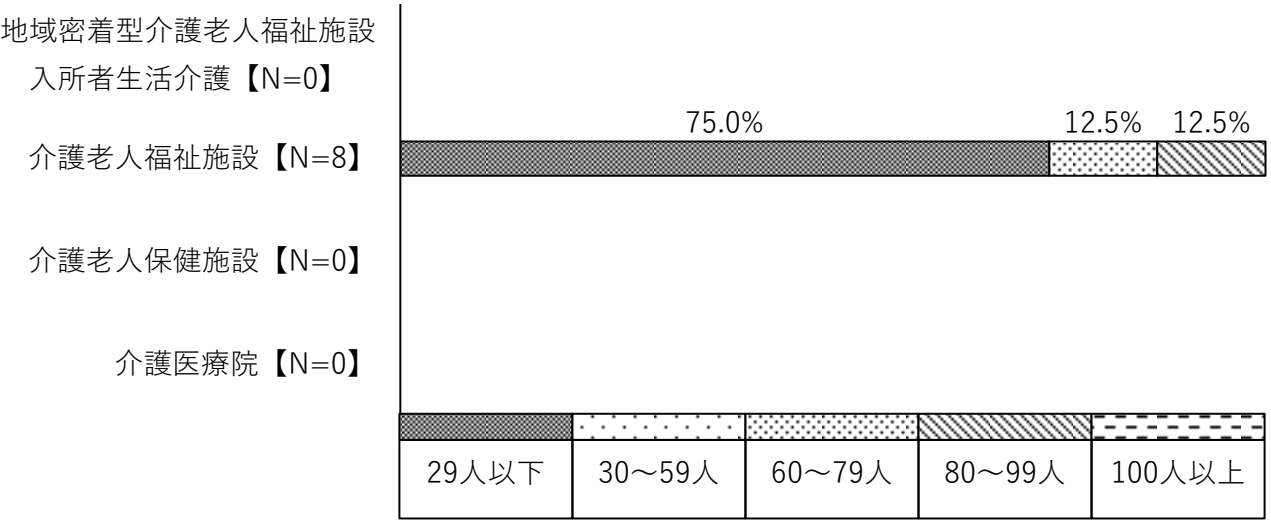
今後、参入・拡充を考えている介護保険サービスについては、「訪問看護」が22.8%と最も高く、次いで「小規模多機能型居宅介護」(21.1%)、「通所介護」(19.3%)と続いています。





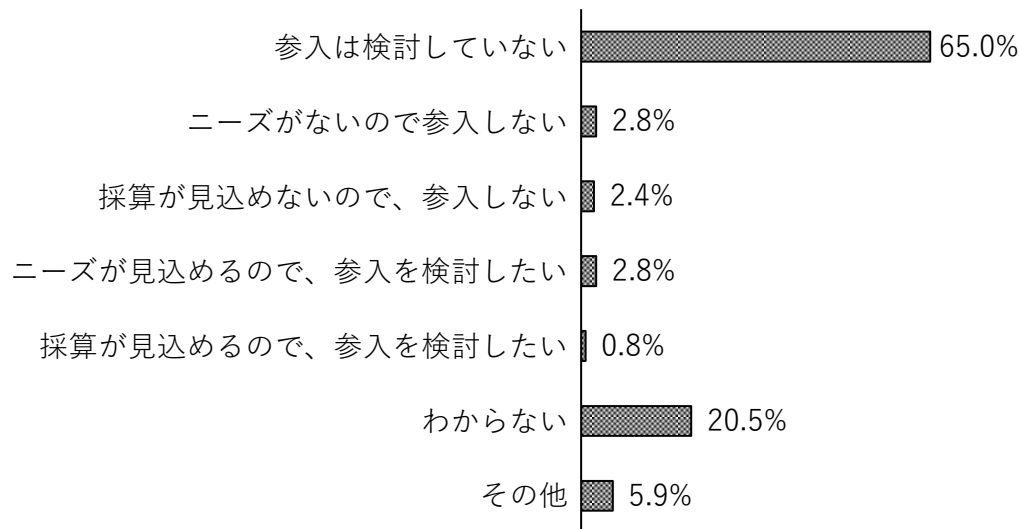
○今後、参入・拡充を考えている施設サービスの定員

今後、参入・拡充を考えている施設サービスの定員については、回答のあった「介護老人福祉施設」は「29人以下」が75.0%と最も高くなっています。「60～79人」と「80～99人」は同率(12.5%)となっています。



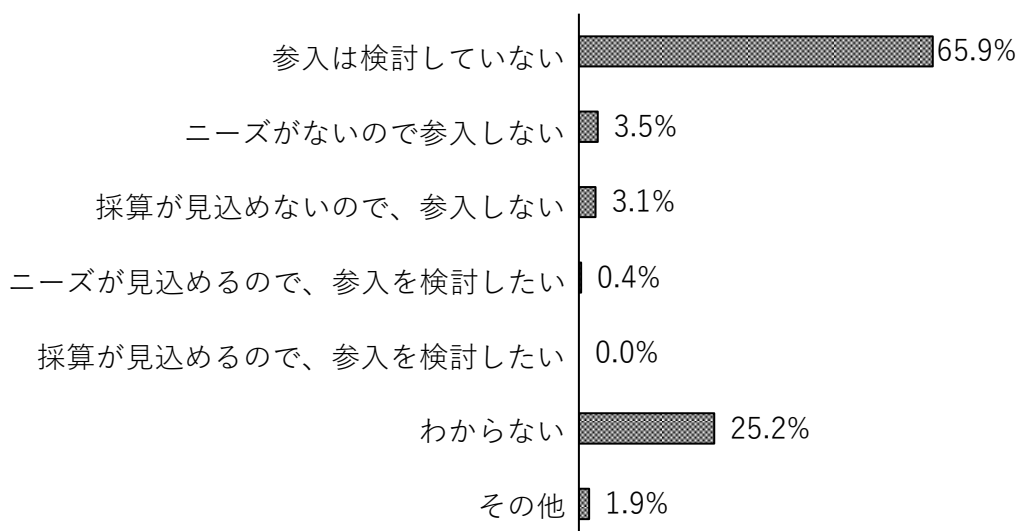
問13 看護小規模多機能型居宅介護については、現計画（第7期介護保険事業計画）に対し整備が遅れていますが、このサービスへの参入について、貴事業所ではどのようにお考えですか。（1つを選択）【N=254】

看護小規模多機能型居宅介護への参入については、「参入は検討していない」が65.0%を占めています。「ニーズが見込めるので、参入を検討したい」（2.8%）と「採算が見込めるので、参入を検討したい」（0.8%）を合わせた『参入を検討したい』は僅か3.6%となっています。



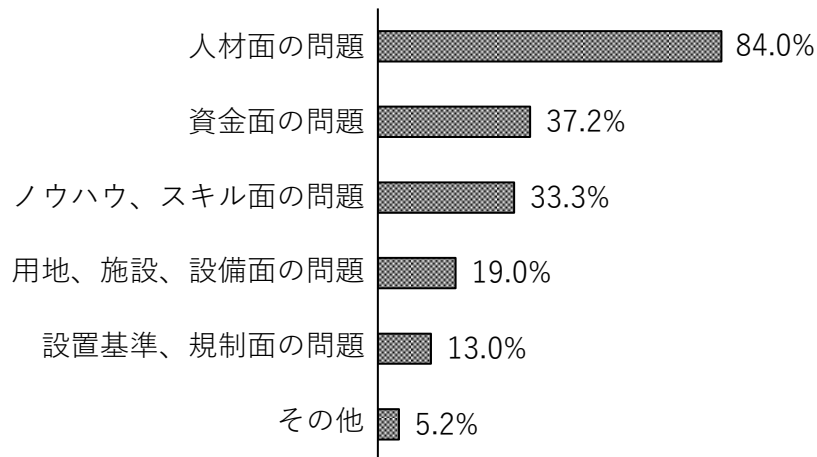
問14 定期巡回・随時対応型訪問介護看護については、現計画（第7期介護保険事業計画）に対し整備が遅れていますが、このサービスへの参入について、貴事業所ではどのようにお考えですか。（1つを選択）【N=258】

定期巡回・随時対応型訪問介護看護への参入については、「参入は検討していない」が65.9%を占めています。「ニーズが見込めるので、参入を検討したい」は僅か0.4%となっており、「採算が見込めるので、参入を検討したい」は0.0%となっています。



問15 問13及び問14のサービスについて、参入を困難にしていることがあるとすれば何ですか。(複数選択可) 【N=231】

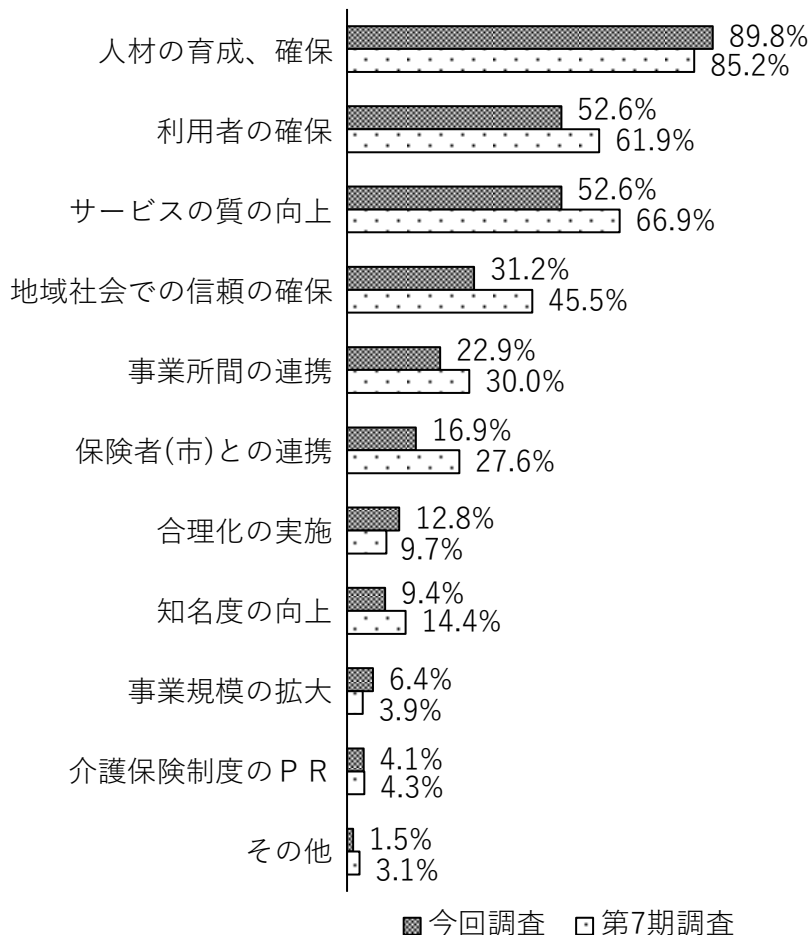
参入を困難にしていることがあるとすれば何かについては、「人材面の問題」が84.0%と突出して高く、次いで「資金面の問題」(37.2%)、「ノウハウ、スキル面の問題」(33.3%)と続いています。



問16 今後、事業を展開していく上での課題は何ですか。(複数選択可)【N=266、257(第7期調査)】

今後、事業を展開していく上での課題については、「人材の育成、確保」が89.8%と最も高く、次いで「利用者の確保」と「サービスの質の向上」が同率(52.6%)で続いています。

第7期調査と比較すると、「人材の育成、確保」が4.6ポイント、「合理化の実施」が3.1ポイント、「事業規模の拡大」が2.5ポイント、それぞれ上昇しています。一方、その他の項目はいずれも低下しており、特に「サービスの質の向上」と「地域社会での信頼の確保」は14.3ポイント、「保険者(市)との連携」は10.7ポイント、「利用者の確保」は9.3ポイント、それぞれ低下しています。



問17 実地指導について、負担に感じていることはありますか。

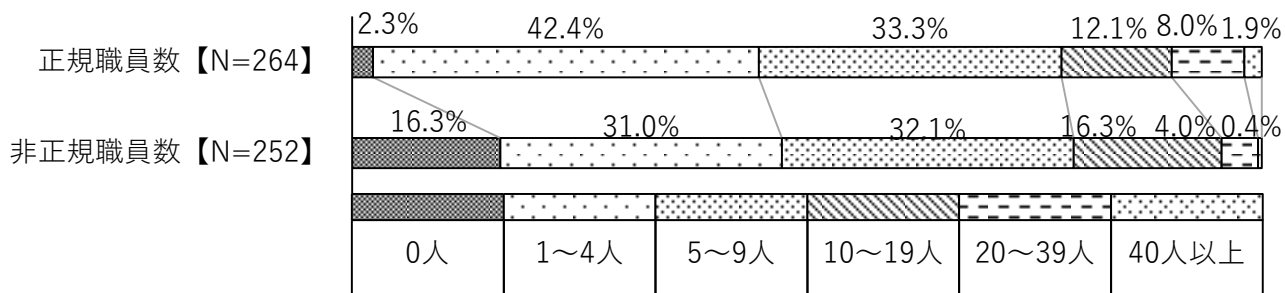
※記述回答につき本報告書(案)では省略

介護人材について

問18 貴事業所における介護職員の総数をお答えください。（数字を記入）

介護職員の人数については、正規職員数は「1～4人」が42.4%と最も高く、次いで「5～9人」が33.3%と続いています。

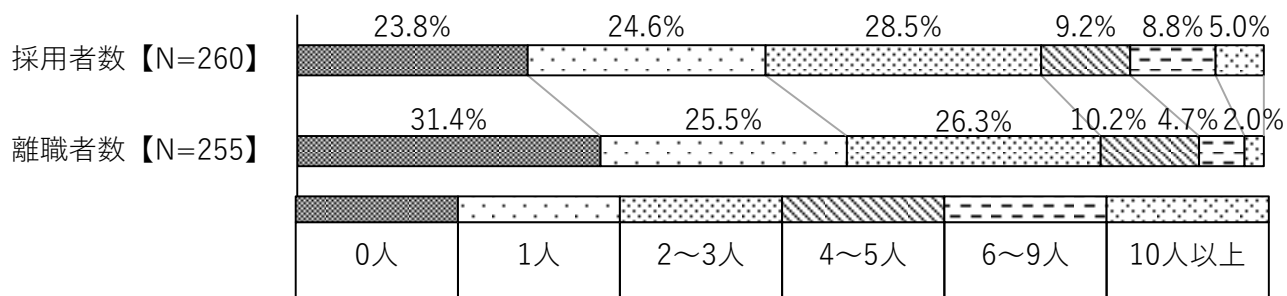
非正規職員数は「5～9人」が32.1%と最も高く、次いで「1～4人」が31.0%と続いています。



問19 昨年1年間（平成31年1月1日～令和元年12月31日）の介護職員の採用者数と離職者数をお答えください。（数字を記入）

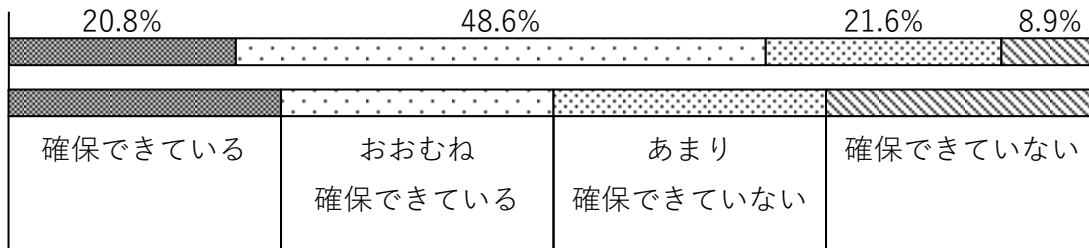
昨年1年間の介護職員の採用者数と離職者数については、採用者数は「2～3人」が28.5%と最も高く、次いで「1人」が24.6%と続いています。

離職者数は「0人」が31.4%と最も高く、次いで「2～3人」が26.3%と続いています。



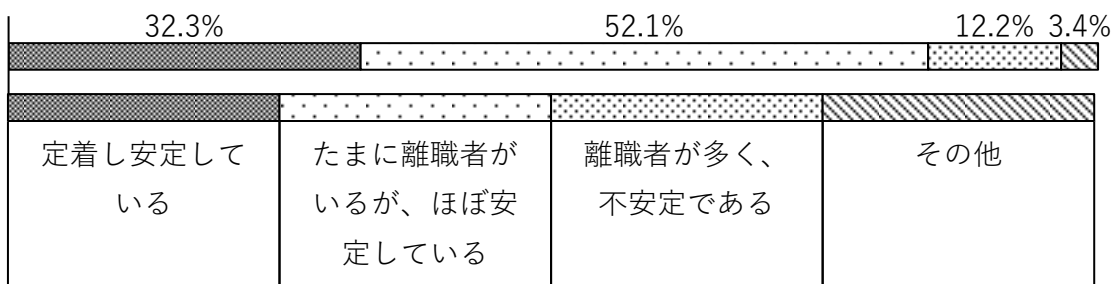
問20 昨年1年間、貴事業所における介護人材の確保について、おおむねどのような状況ですか。
(1つを選択) 【N=259】

昨年1年間の介護人材の確保状況については、「おおむね確保できている」が48.6%と最も高く、「確保できている」(20.8%)を合わせると『確保できている』は69.4%を占めています。一方、「あまり確保できていない」(21.6%)と「確保できていない」(8.9%)を合わせた『確保できていない』は30.5%となっています。



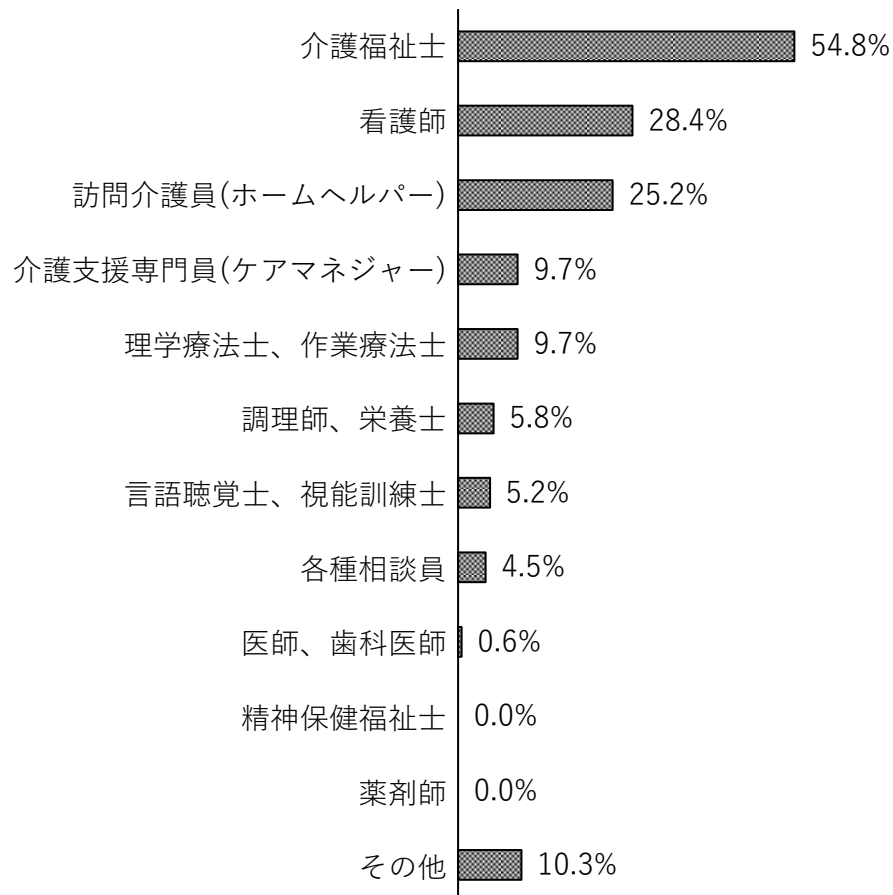
問21 昨年1年間、貴事業所における職員の定着について、おおむねどのような状況ですか。
(1つを選択) 【N=263】

昨年1年間の職員の定着状況については、「たまに離職者がいるが、ほぼ安定している」が過半数(52.1%)を占めており、「定着し安定している」(32.3%)を合わせると『安定している』は84.4%を占めています。一方、「離職者が多く、不安定である」は12.2%となっています。



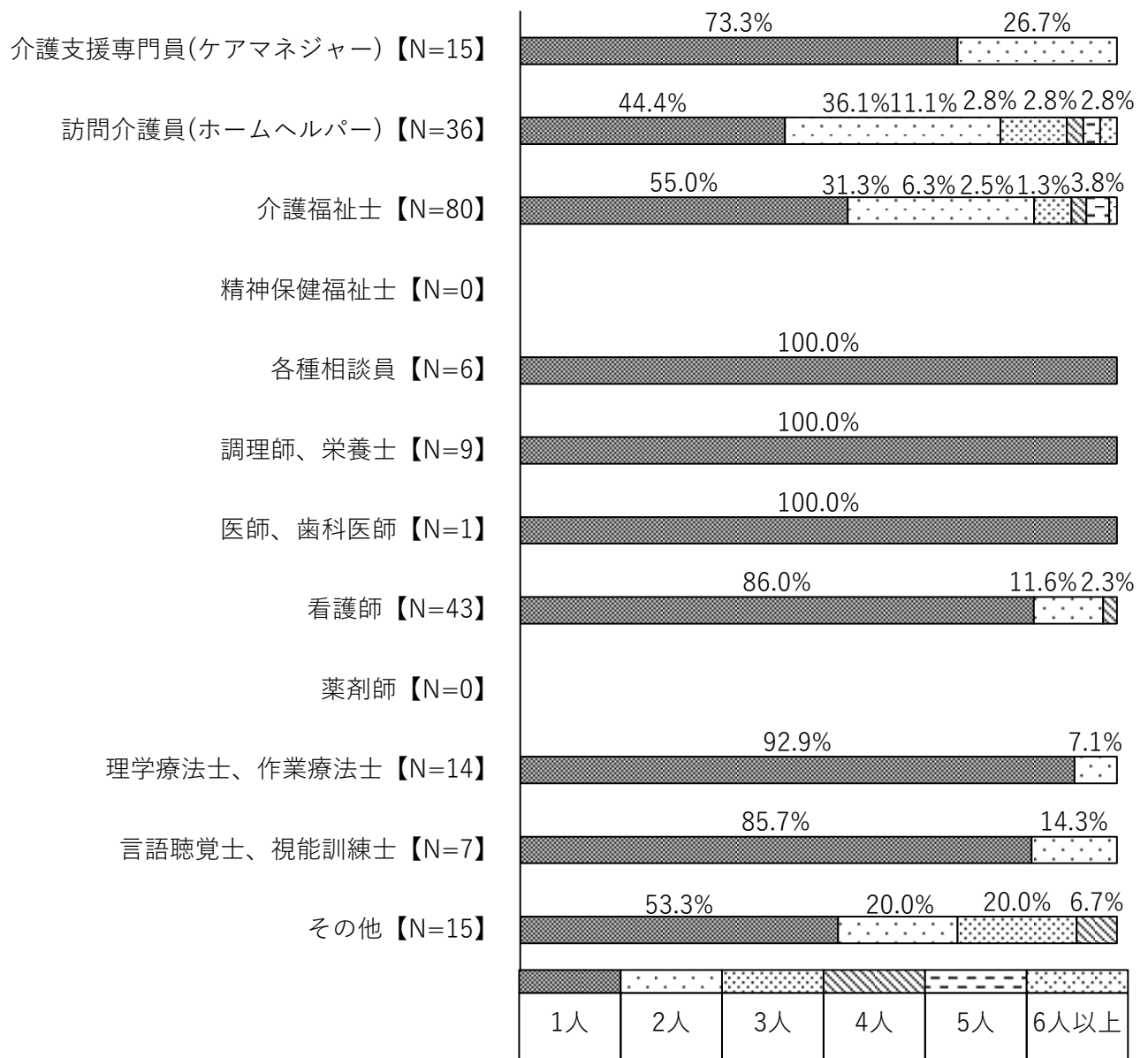
問22 貴事業所においては、どの職種がどれくらい不足していますか。（当てはまるものすべてに○を付け、不足する人数を〔 〕内にお書きください。なお、人数は常勤換算でお書きください）【N=155】

不足している職種については、「介護福祉士」が54.8%と最も高く、次いで「看護師」(28.4%)、「訪問介護員(ホームヘルパー)」(25.2%)と続いています。



○職種別不足している人数

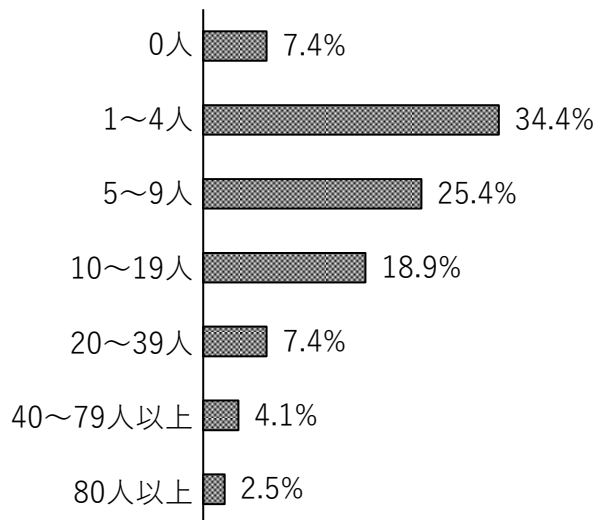
不足している人数については、いずれの職種も「1人」が最も高くなっています。また、「介護支援専門員」や「訪問介護員」、「介護福祉士」などでは「2人」も30%前後あります。



施設・居住系の事業所における入退居の状況について

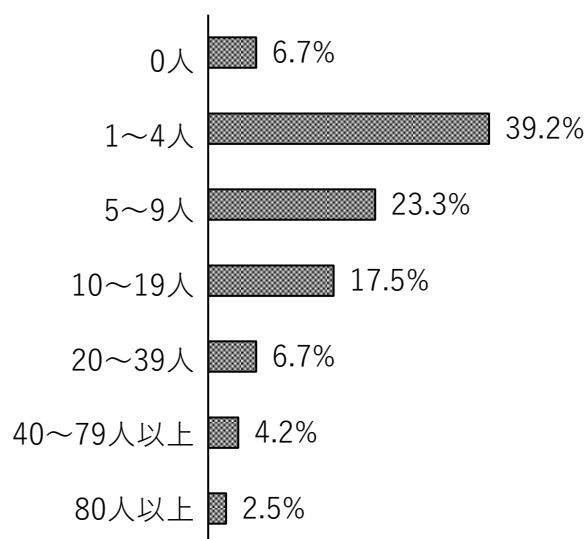
問23 昨年1年間（平成31年1月1日～令和元年12月31日）に、貴事業所に新規で入所・入居した人の人数をご記入ください。【N=122】

昨年1年間に新規で入所・入居した人数については、「1～4人」が34.4%と最も高く、次いで「5～9人」が25.4%と続いています。



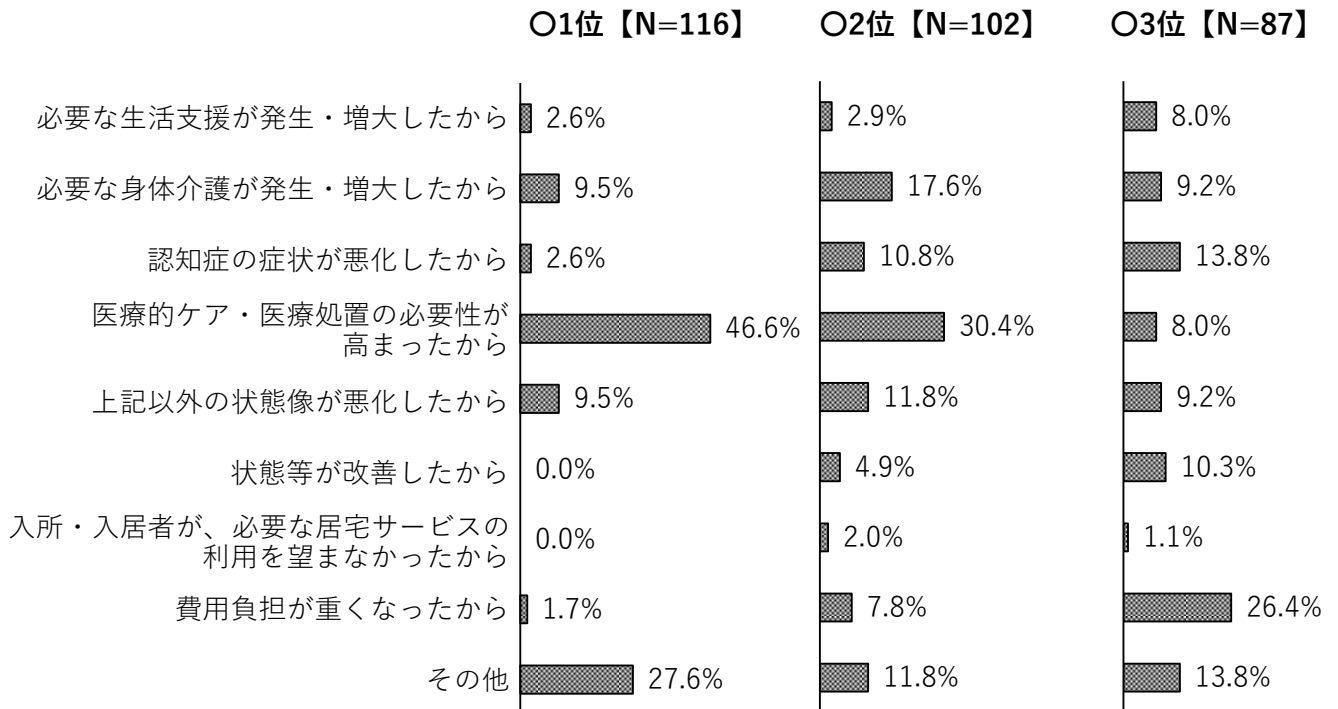
問24 昨年1年間（平成31年1月1日～令和元年12月31日）に、貴事業所を退去した人の人数をご記入ください。【N=120】

昨年1年間に退居した人数については、「1～4人」が39.2%と最も高く、次いで「5～9人」が23.3%と続いています。



問25 貴事業所の入居・入所者が、退去する理由は何ですか。退去理由として多いものを上位3つまで選んで、該当する□に✓を付けてください。

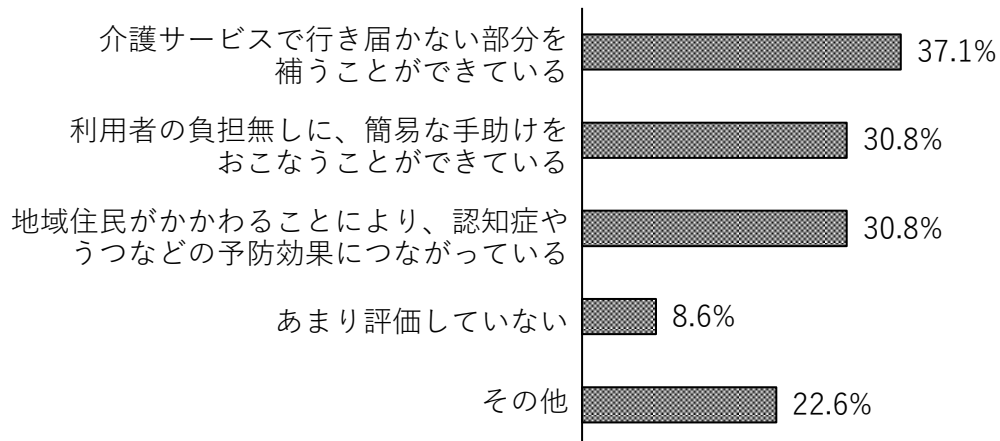
入居・入所者が、退去する理由については、1位は「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」が46.6%と最も高く、次いで「その他」が27.6%と続いています。2位も「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」が30.4%と最も高く、次いで「必要な身体介護が発生・増大したから」が17.6%と続いています。3位は「費用負担が重くなったから」が26.4%と最も高く、次いで「認知症の症状が悪化したから」と「その他」が同率(13.8%)で続いています。



地域包括ケアについて

問26 介護予防・日常生活支援総合事業におけるボランティアやNPOによる介護や生活支援サービスについて、どのように評価されていますか。（複数選択可）【N=221】

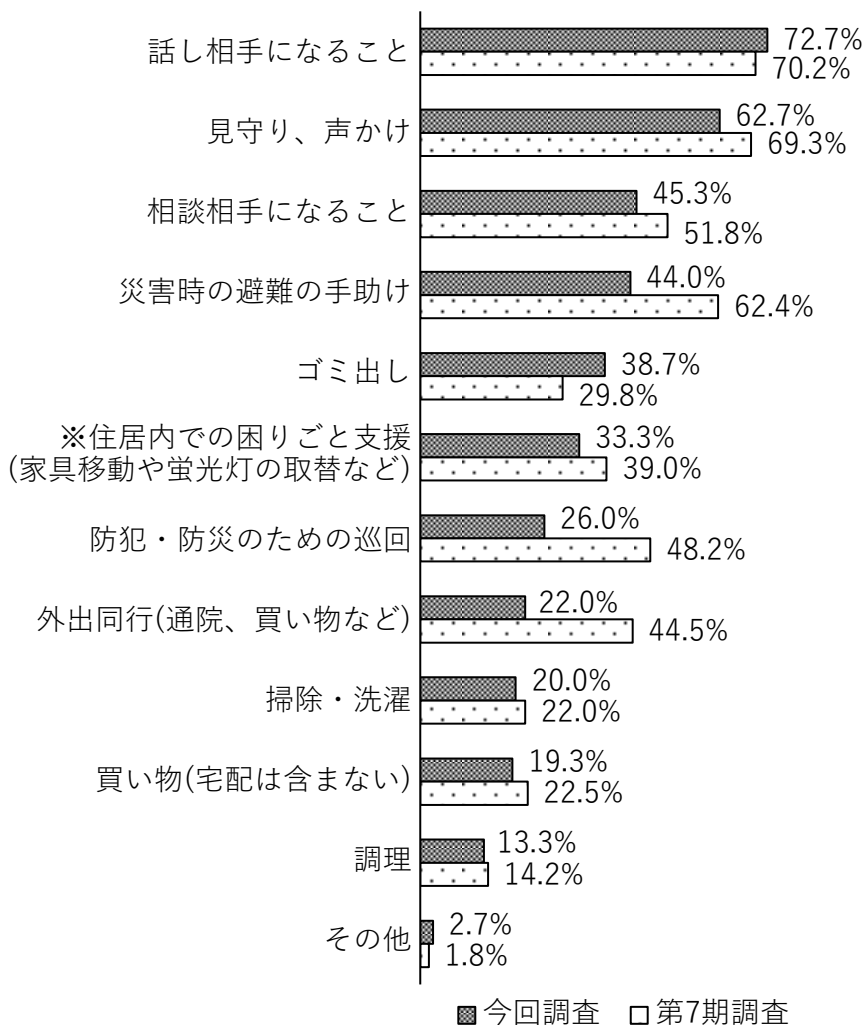
介護予防・日常生活支援総合事業におけるボランティアやNPOによる介護や生活支援サービスへの評価については、「介護サービスで行き届かない部分を補うことができる」が37.1%と最も高く、次いで「利用者の負担無しに、簡易な手助けをおこなうことができる」と「地域住民がかかわることにより、認知症やうつなどの予防効果につながっている」が同率(30.8%)で続いています。一方、「あまり評価していない」は8.6%となっています。



問26で「1」～「3」と回答した事業所にお伺いします。

問26-② ボランティアやNPOは、具体的にどのような手助けをすることが有効だと思いますか。（複数選択可）【N=150、218(第7期調査)】

ボランティアやNPOによる有効な手助けについては、「話し相手になること」が72.7%と最も高く、次いで「見守り、声かけ」(62.7%)、「相談相手になること」(45.3%)と続いています。第7期調査と比較すると、「ゴミ出し」が8.9ポイント、「話し相手になること」が2.5ポイント、それぞれ上昇する一方、その他の項目はいずれも低下しており、特に「外出同行(通院、買い物など)」は22.5ポイント、「防犯・防災のための巡回」は22.2ポイント、「災害時の避難の手助け」は18.4ポイント、それぞれ低下しています。



※「住居内での困りごと支援(家具移動や蛍光灯の取替など)」の第7期調査の数値については、「住居内の荷物の移動」と「高い所の作業(蛍光灯の取替など)」の合算

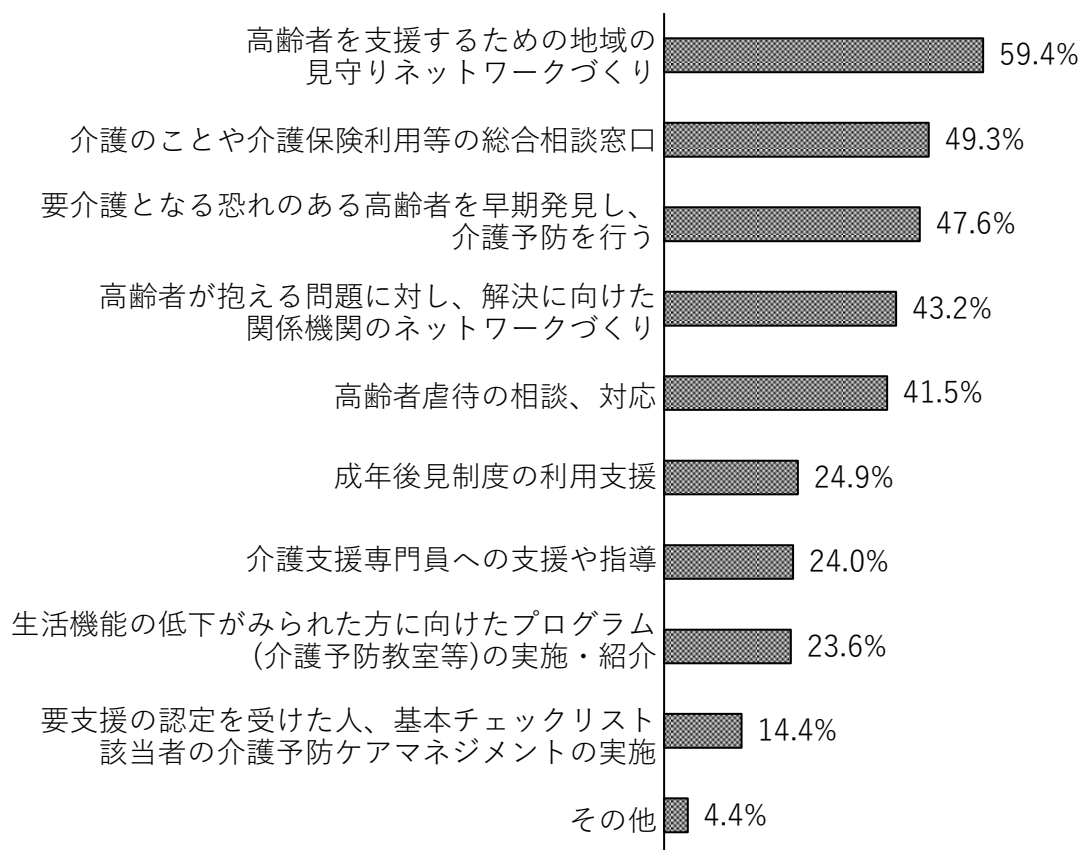
問26で「4」と回答した事業所にお伺いします。

問26-③ その理由は何ですか。

※記述回答につき本報告書(案)では省略

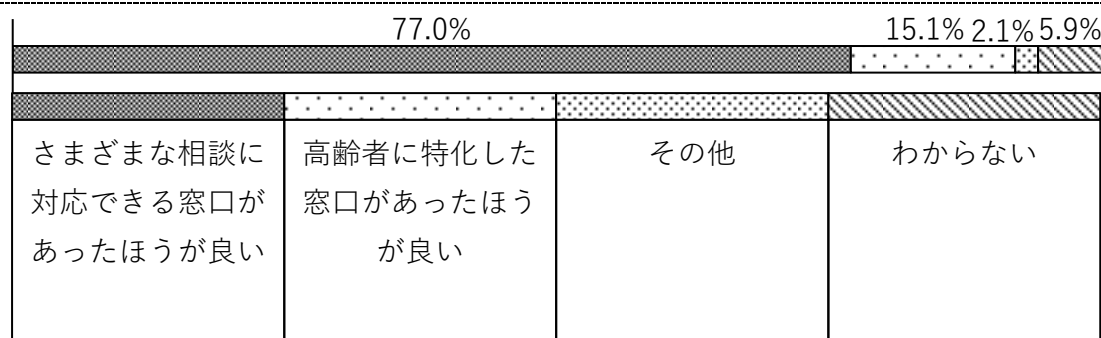
問27 地域包括支援センターの機能のうち、充実を望むものはどれですか。（複数選択可）【N=229】

地域包括支援センターの機能のうち、充実を望むものについては、「高齢者を支援するための地域の見守りネットワークづくり」が59.4%と最も高く、次いで「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」（49.3%）、「要介護となる恐れのある高齢者を早期発見し、介護予防を行う」（47.6%）と続いています。



問28 高齢者だけでなく、障がい、子育て、生活困窮などさまざまな相談に対応する窓口についてどのように思いますか。（1つを選択）【N=239】

さまざまな相談に対応する窓口については、「さまざまな相談に対応できる窓口があったほうが良い」が77.0%を占めています。「高齢者に特化した窓口があったほうが良い」は15.1%となっています。



問29 介護支援専門員との連携を図る上での困りごとがあればお書きください。

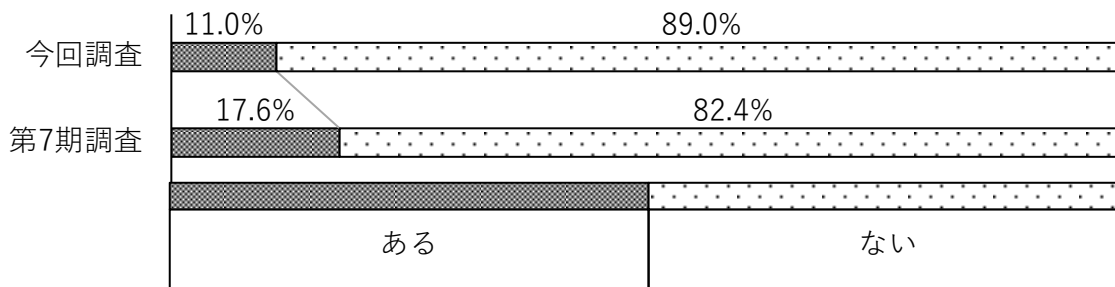
※記述回答につき本報告書(案)では省略

問30 この1年間に、家族介護者等による虐待が疑われるケースにかかわったことがありますか。「ある」に○をつけた方は、()内にその件数を記入してください。【N=236、261(第7期調査)】

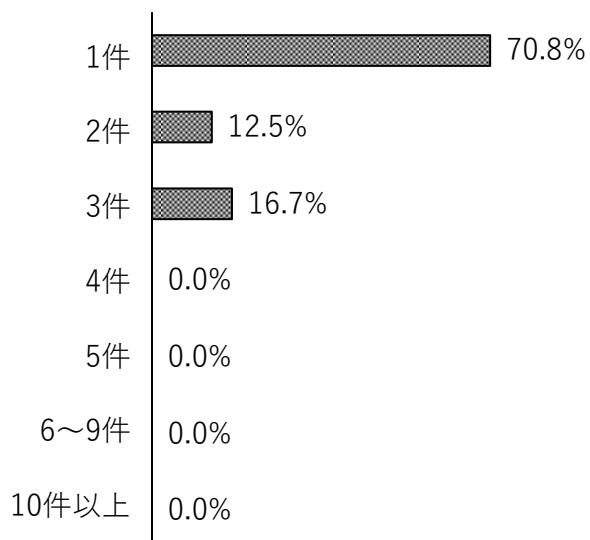
この1年間に家族介護者等による虐待が疑われるケースにかかわったことについては、「ある」が11.0%、「ない」が89.0%となっています。

第7期調査と比較すると、「ない」が6.6ポイント上昇しています。

ある場合の件数については、「1件」が70.8%と突出して高くなっています。



○ある場合の件数【N=24】



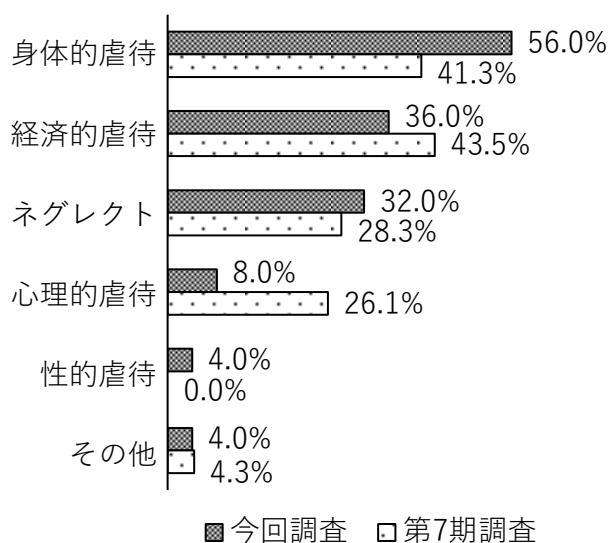
問30で「1」と回答した事業所にお伺いします。

問30－② 貴事業所でかかわった虐待の疑われるケースは、次の分類で何件ずつになりますか。
あてはまる分類すべてに○をつけ、件数を記入してください。【N=25、46(第7期調査)】

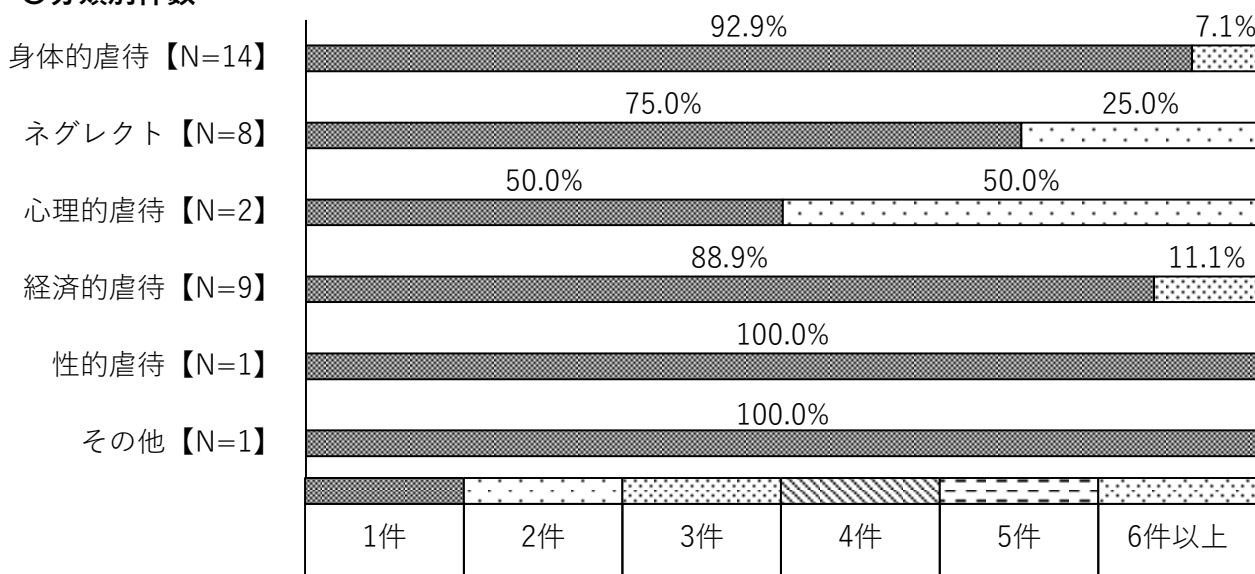
かかわった虐待の疑われるケースの分類については、「身体的虐待」が56.0%と最も高く、次いで「経済的虐待」(36.0%)、「ネグレクト」(32.0%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「身体的虐待」が14.7ポイント上昇する一方、「心理的虐待」は18.1ポイント低下しています。

分類別の件数については、「心理的虐待」では「1件」と「2件」が同率(50.0%)となっていますが、その他の分類では「1件」が最も高くなっています。また、「経済的虐待」では「3件」が11.1%となっています。

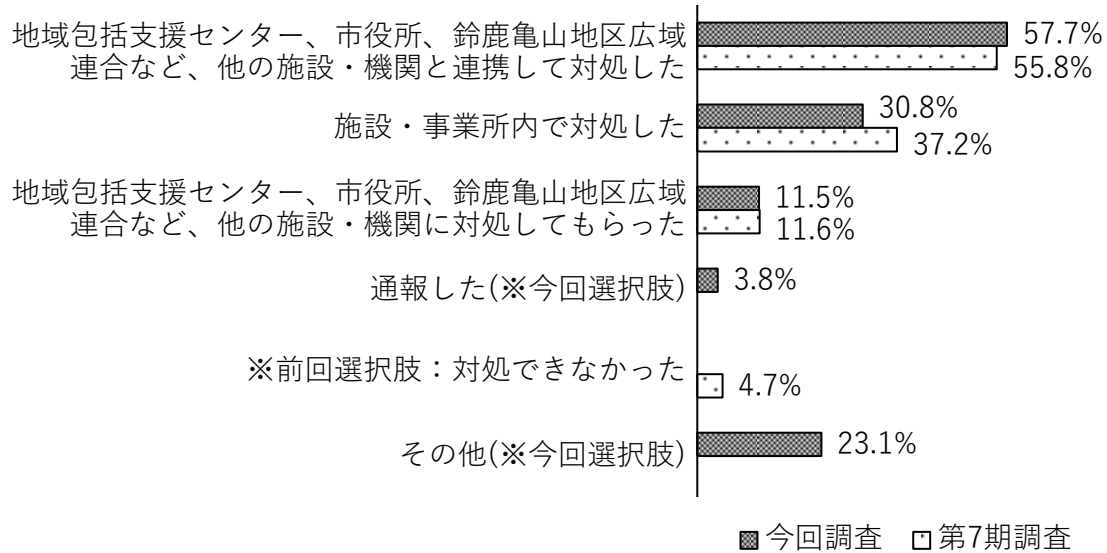


○分類別件数



問30－③ 貴事業所が虐待の疑われる事例にかかわったときに、どのような方法で対処しましたか。（複数選択可）【N=26、43(第7期調査)】

虐待の疑われる事例にかかわったときの対処方法については、「地域包括支援センター、市役所、鈴鹿亀山地区広域連合など、他の施設・機関と連携して対処した」が57.7%と最も高く、次いで「施設・事業所内で対処した」が30.8%と続いています。



これからの高齢者介護について

問31 鈴鹿亀山地区において「地域包括ケアシステム」を深化・推進していくためには、どのような課題を解決する必要があると思いますか。

※記述回答につき本報告書(案)では省略

問32 家族の介護を理由とする離職者を減らすには、どんなことが必要だと思いますか。

※記述回答につき本報告書(案)では省略